Arundinaria Chino MAKINO. トナシアルハ宜シク之レヲ Sasa Hisauchii MAKINO. ト訂正スベキモノデアル即チ Arundinaria Chino MAKINO in 坪井伊助竹類圖譜第六十五葉 (2) 並ニ同解説二八頁、non 植物學雜誌第二十六卷十四頁 (1912) デアル

○うせんちくトよこはまちく

久内清孝

うせんちく　大正九年ノ冬ノ事デアル余ハ横濱市ノ鷺山デめだけ屬ノ一種ヲ得之ヲ牧野先生ニ示シタ先生ハ當時之ヲ栽培セルおろしまちくノ野生品ト考ヘ其事ヲ植物學雜誌第二十六卷歐文第十六頁ニ圖ヲ入レテ報ゼラレタ後坪井伊助氏ガ日本竹類圖譜ヲ發行スルニ當リ先生ハ之ニ Arundinaria Hisauchii MAKINO ノ名ヲ與ヘ且ツ和名ヲうせんちくト命ゼラレタガ坪井氏ノとよばちく、ほそかはたけ等ノ名ハ此ノ竹ノコトデアル本多林學博士ノ造林學各論第五竹類編ニハうせんちく羽扇竹おほおろしまちくノ名ガ擧ゲラレテ居ル是レハ何レモ牧野先生ノ和名デアル其後此ノ竹ノ性質ガ段々判明シタノデ近頃デハ牧野先生ハあづまねざゝノ一品ト考ヘラレルニ至リ遂ニ Pleioblastus Chino MAKINO var. Hisauchii MAKINO. ノ學名ヲ發表セラレタ

右ノ様ナ經過ヲ取ッテ來タ此ノ竹ハ關東一帶ニ於テ獨特ナ相貌ヲ表ハスあづまねざゝ即チ P. Chino (FRANCH. ET SAV.) MAKINO. ノ中デ横濱鷺山産ノ如キ特有ノ形態ヲ呈スル品ヲ指シタモノデアル此點ニ於テ鷺山ノ産地ハ記念スベキ地點ナルモ現時都市計劃ノ進行スルニ伴ヒ其産地ガ住宅地ト化シ此處ノうせんちく本來ノ姿ハ只僅ニ前掲植物學雜誌ノ挿圖ヲ殘シテ永久ニ吾人ノ視界カラ沒シ去ラントシツヽアル

此うせんちくノ代表的形態ハ枝端ノ葉ガ掌狀ニ散開シテ羽扇狀ヲ呈スルコトデ此特性ハ秋ニナルト最モ顯著トナル葉ハ强直ダカラ垂下セズ表裏共ニ無毛デ其先端ハ急ニ尖頭ニナリ乾ケバ灰色トナリ數條ノ縱溝ヲ現出スル性質ガアル其典型的ノモノハ葉長一寸乃至三寸デ葉柄ハ殆ンドナク葉鞘ハ秋末ニ至リ往々枝ヨリ遊離シテ莖ニ

よこはまちく Pleioblastus Matsunoi (MAKINO) NAKAI.
(大正七年十月十八日　久内淸孝撮影)

併行シ陽光ニ浴スル部分ハ紫色ヲ帶ビテ居ル各節ヨリハ小枝ヲ密生シ上部ニ至ルニ從ヒ漸クニソノ數ヲ減ズルソシテ莖ノ最頂部ノ枝ハ初年デハタヾ一本トナッテ居ル各枝ノ末端ニハ羽扇狀ノ葉ヲ掌狀ニ展開スルコ

ト前陳ノ通リデアル

よこはまちく 大正七年ノ頃松野重太郎氏ハ其勤務スル神奈川縣立第一中學校（横濱市西戸部）ヘ通勤ノ途次めだけ属ノ一品ヲ得ラレタ當時横濱植物會ノ面々ハ何レモ竹熱ニ浮カサレテ居タノデ松野君發見ノ竹ハ早速問題トナリ會員一同未熟ノ頭ヲヒネルコト頻リデアッタ當時横濱ニ存スルめだけ屬ノ野生品ハ結網先生ガ最近提唱スルあづまねざゝ（Pleioblastus Chino Mak.）トめだけト丈デアッタノデアルガ松野君所採ノモノハ其何レニモ似ズ却ッテ兩者ノ特徵ヲ共有スル様ナ形態ノモノデアルノデ遂ニ其何物タルヤヲ知ル能ハズ最後ニ結網先生ノ高鑑ヲ請フタ處先生ハ之ヲ新種ト考定サレ Arundinaria Matsunoi Mak. 和名よこはまちくト命ゼラレ植物研究雜誌第二巻二號ニ之ヲ發表サレタノデアルガ大正十四年ニ中井博士ハ Journal of the Arnold Arboretum Vol. VI. No. 3. ニ於テ Pleioblastus ノ新屬ヲ建設シテ Arundinaria ノ本邦ニ産スルモノヲ之ニ收ムルニ當リ本種モ亦 P. Matsunoi Nakai ト改變サレタ

此竹ノ寫眞ハ（前頁ノ）當時余ノ撮影シタモノデアルガ之ニヨッテ幾分デモ其形態ヲ同好者ニ御覽ニ入レルコトガ出來レバ幸デアルト思ヒ本誌ニ掲出スルコトニシタ、形態ハ一見めだけノ様デアルガ葉質更ニ强直デアルカラ決シテめだけノ様ニ垂下シナイ此ノ點あづまねざゝニ似テ居ルガ其葉片ハ漸次狹長トナリ遂ニ其尖端ハ所謂漸尖頭ニナルカラ之ヲ遠望スルトキハ甚ダ葉ノ鋭尖ナ竹ニ見エルコト寫眞ノ通リデアルマタ稈ハ餘リ大クナクねざゝ的デアルカラ葉ノ重量デ自然一方ニ傾ク様ニナルマタ葉ノ兩面ハ全ク平滑デ平均ノ長サハ約五寸最廣部ノ幅員約五分位デ鋭脚デ柄ハ甚ダ短ク最長二分程デアル未ダ花ヲ見ナイ産地ハ横濱市西戸部町池ノ坂ノ一小地域ノ傾斜地デ尚未ダ其他ニ之ヲ産スルノ報ニ接シナイ若シ此ノ竹ノ起原ニ就キ臆斷スルコトヲ許サルヽナラあづまねざゝトめだけトノ間種トデモ言ヒタイノデアル

此竹ノ生ジ居ル場處ハ日ヲ逐テ住宅地トナリ其生存ノ運命轉タ岌々乎タル現狀ノ下ニ置カレテアル